

富田林の自然

人と生きものがひびきあう
里山をめざして



No. 17

2019 年 3 月

富田林の自然を守る市民運動協議会

目 次

「富田林の自然」No. 17の発刊に寄せて	1
森井善博（大阪府南河内農と緑の総合事務所所長）	
里山の草地管理	2
富田林市とその周辺（南河内地域）の野鳥	5
上村 賢（日本野鳥の会大阪支部, 大阪府鳥獣保護管理員）	
生物多様性保全のための基礎調査	26
～H30 年度「自然環境保全活用調査その 17」報告書より抜粋～	
富田林の自然を守る市民運動協議会	
2018 年度活動の記録	37
協議会参加団体の活動報告	42

表紙の写真

里山の竹林整備

現在、里山林の生物多様性を低下させている大きな要因として三つのことが指摘されている。一つは植物の遷移による照葉樹林化であり、二つにはスギ・ヒノキの人工林の間伐などの管理が不十分なことである。三つにはモウソウチクをはじめとする竹林の管理が放棄され、里山林に侵入し拡大していることである。奥の谷においてもこれら三つの問題が存在している。

竹林については地権者の要請により、竹を伐採除去し元の雑木林やスギ・ヒノキ林の復活を目指す場所と竹林として整備する場所がある。自然環境市民大学（大阪自然環境保全協会）の実習で竹林の一部を整備し「竹林の里」と名付けた。写真はその報告会の様子である（2019年2月）。この竹林全体は自然を守る会の「里山保全作業」の行事の中で「大阪シニア自然カレッジ里山部会」の方々を中心に精力的に整備が進められている。

「富田林の自然」No.17 の発刊に寄せて

大阪府南河内農と緑の総合事務所

所長 森井 喜博

「富田林の自然」の発刊にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

この度、富田林の自然を守る市民運動協議会の会員並びに関係者の皆様のご尽力により、富田林市内とその周辺部で野鳥の観察や草地における植物調査などを実施され、その報告書として No.17 号が上梓されますことを心からお喜び申し上げます。



さて、大阪府では、平成 23 年 3 月に策定した「大阪 21 世紀の新環境総合計画」におきまして、「全てのいのちが共生する社会の構築」というテーマを掲げ、府域に残る自然環境や生物多様性の保全についての府民理解の促進や、生き物の生息環境の保全と回復への行動の促進に向け、取組みを進めているところです。

そのための指標となる「大阪府レッドリスト 2014」を平成 26 年にとりまとめています。

この「大阪府レッドリスト 2014」では、府域の中で、日本固有種を含め、希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域を「生物多様性ホットスポット」として 55 か所選定しています。

富田林市においては、大阪府自然環境保全条例に基づき、大阪府自然環境保全地域に指定されている美具久留御魂神社の一部エリアと石川周辺エリアの 2 か所が選定されています。

また、市域には、「生物多様性ホットスポット」だけでなく、市街地と近接する緑地や農地、里山も見られ、都市近郊における生き物の貴重な生息空間となっています。

こうしたフィールドにおいて、富田林市が事務局となり、里山保全活動団体や地域の山岳会などが構成メンバーとなっている富田林の自然を守る市民運動協議会が、長年にわたり、自然観察会の開催や里山の維持管理、さらには農地での希少な生き物の生息空間づくりなど、市域の自然環境の保全に資する様々な活動を推進されていることに、敬意を表する次第です。

今後とも、民間団体のみなさんが主役となり、その活動を富田林市がサポートとするという官民連携の体制を基軸として、市民ぐるみの活動がさらに発展していくことを期待しています。

里山の草地管理

里山の草地と言えば、田んぼの畦やため池の土手がその代表であろう。「田んぼの畦の植生は、第4氷期の草甸（そうでん）の植物が氷期後も、人間の農耕（稲作）による自然への働きかけ（草刈り）の時期と重なり、森林化への移行が止まっている状態の草原（田端英雄；里山の自然）」と考えられている。したがって、水田の畦は草甸の時代の生物が保全された重要な場所ということができよう。近年、山間の水田は稲作が行われず、ネザサなどに覆われるなど荒廃した放棄田となっているところも多い。

私たちは奥の谷や南原で、このような水田の畦やため池の土手、放棄田などの草刈りを定期的に行い、本来の畦植物の保全に努めている。奥の谷の3つのため池の土手や用水路の周辺については、水利組合などとも協働して年1回の草刈りを実施している。

ため池の土手の草刈り(今池)



2000年の国際ワークキャンプで初めて今池の土手の草刈りを実施、以後毎年1回、奥の谷の3つのため池（中池・今池・キツネ谷池）の土手と用水路わきの草刈りを水利組合と協働で実施している。以前はネザサで覆われていたが今ではヒヨドリバナ、タチカモメヅル、カナビキソウなど種々の植物がみられるようになった。



ヒヨドリバナ



タチカモメヅル



カナビキソウ

背丈を超えるネザサノ丘がタンポポノ草原に



以前はミカン園だった奥の谷の丘、ミカン栽培が斜陽化して20年ぐらい放置されて全体がネザサに覆われていた。2001年3月にネザサを刈り取り（写真左）、カキ、スモモ、クリ、ビワ、ナシなどの果物を植え「果樹の丘」と名付けた。以後年2回の草刈りを実施、2010年には一面にカンサイタンポポの花が咲き誇った（写真右）。この丘にはこのほかにフキ、ノジスミレ、タチツボスミレ、コスミレ、ノアザミ、ウマノアシガタ、ノダケ、ヌスビトハギ、ヒメキンミズヒキなど多様な植生が見られるようになった。



ノダケ

放棄田がウマノアシガタやノアザミの花園に



長期間休耕されているが、地権者による草刈りが行われてきていた。その後自然を守る会が草刈り管理を引き継ぎ毎年3回程度の草刈りを実施している。4月にはウマノアシガタが一面に咲き（写真左）、6月にはノアザミが咲き乱れる（写真右）。ここにはこのほかにツリガネニンジン、ダイコンソウ、ミゾソバ、フキ、カンサイタンポポなどが花を咲か



フキ

田んぼの畦にはツリガネニンジン・ワレモコウ・リンドウ



リンドウ



ワレモコウ

前ページの休耕田の畦も同様に年3回の草刈りを実施している。秋にはツリガネニンジンが見事に咲き（写真左）、リンドウ（写真右上）やワレモコウ（写真右下）も見られる。このほかアキノタムラソウ、ノアザミ、フキ、ゲンノショウコなども花を咲かせる。

残土で埋め立てられた放棄田は徐々に回復



奥の谷の東の南原と呼ばれる谷の放棄田は、2004年に瀧谷不動尊駐車場造成に伴って埋め立てられた（写真上左）。その後栗が植栽されたが、その多くは枯死した。当初はナルトサワギク、アレチヌスビトハギ、セイタカアワダチソウなどの外来植物が繁茂したが、毎年草刈りを根気よく続けることで（写真上右）、近年ではススキ、チガヤなどが増え、イヌコウジュなどの在来植物がみられるようになってきている。

富田林市とその周辺(南河内地域)の野鳥

日本野鳥の会大阪支部
大阪府鳥獣保護管理員(南河内)
上 村 賢

1992年に富田林市に転居、2001年から日本野鳥の会大阪支部の錦織公園定例探鳥会(毎月第四日曜日に開催)の担当、2007年から大阪府鳥獣保護員(現在は鳥獣保護管理員)の巡視・調査、2013年から隔年で富田林市立東公民館の四季の野鳥観察の講師として携わってきて、富田林市とその周辺(南河内地域)で観察することができた野鳥の場所と時期をご紹介しますものです。

20年以上の期間の中で、毎年必ず多くの個体が観察できる種を「多い」、毎年必ず複数個体が観察できる種を「普通」、約半数の年で観察できた種を「少ない」、これまで、1～数回観察できた種を「稀」と分類し、地域に分けて一覧表を作成しました。地域は、錦織公園とその周辺の住宅地・農地を含めた「錦織公園」、石川の近鉄・汐ノ宮駅東側の千代田橋から、太井川が合流する地点までの河川敷や堤防、隣接する農耕地、支流ほかを「石川流域」、サバーファームから河南町寛弘寺にかけて広がる佐備川沿いの丘陵地周辺を「佐備／寛弘寺」、金剛山の山頂を中心に各登山道を含め「金剛山」と分けました。種の番号および「科」は、日本鳥学会発行の『日本鳥類目録 改訂第7版』に基づいています。観察された場所と時期については、本文に記載し、特記事項を記しました(末尾に一覧表を示しています)。

★キジのなかま

・ヤマドリ

場所：金剛山山頂、金剛山ロープウェイ千早駅前。時期：通年。冬が見やすい。

・キジ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺周辺の農耕地。時期：通年。

繁殖期に雄が大きな声で「ケッケーン」と鳴くため、見やすい。

・コジュケイ(外来種)

場所：全域。時期：通年。

繁殖期に雄が大きな声で「チョットコイ」と鳴く。



コジュケイ



キジ

★カモのなかま

・オシドリ

場所：錦織公園の赤穂池・奥の池、公園南側の細谷池。時期：12月～3月。

・オカヨシガモ



オシドリ



オカヨシガモ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：10月～3月。

- ・ヨシガモ

場所：錦織公園の池、佐備のため池。時期：10月～3月。

- ・ヒドリガモ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：10月～3月。

- ・アメリカヒドリ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：10月～3月。

- ・マガモ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：10月～3月。

- ・カルガモ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：通年。

- ・ハシビロガモ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：10月～3月。
水面を群れで渦を巻くように泳ぎ採餌する。

- ・オナガガモ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐

備のため池。時期：10月～3月。

- ・シマアジ

場所：佐備のため池。時期：9月～10月。

- ・トモエガモ

場所：錦織公園の池、佐備のため池。時期：11月～2月。

- ・コガモ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。期：10月下旬～4月下旬。
彼方中ノ池に多数集結。

- ・ホシハジロ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：10月～3月。

- ・アカハジロ

場所：錦織公園の池、狭山池。時期：11月～2月。

- ・メジロガモ

場所：錦織公園の池、佐備のため池、狭山・副池。時期：11月～2月。

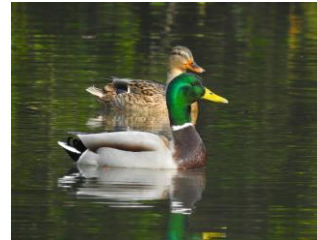
- ・キンクロハジロ



ヨシガモ



ヒドリガモ



マガモ



アメリカヒドリ



オナガガモ



カルガモ



トモエガモ



コガモ



キンクロハジロ



ホシハジロ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：10月～3月。

- ・ミコアイサ

場所：錦織公園の池、金剛・寺ヶ池。時期：11月～2月。

- ・カワアイサ

場所：錦織公園の池、石川流域、狭山池。時期：11月～2月。



ミコアイサ

★カイツブリのなかま

- ・カイツブリ

場所：錦織公園の池、石川流域、佐備のため池。時期：通年。

「ケレレレ」と大きな声で鳴き、よく潜る。

- ・カンムリカイツブリ

場所：錦織公園の池、金剛・寺ヶ池、狭山池。時期：10月～3月。



カイツブリ



カンムリカイツブリ

★ハトのなかま

- ・キジバト

場所：全域。時期：通年。

「デデーポッポー」と鳴く。単独または2羽で行動し、大きな群れにはならない。

- ・アオバト

場所：錦織公園、金剛山。時期：通年。

「オアーオ、オアーオ」と鳴く。群れで行動することが多い。

- ・カワラバト(ドバト)(外来種)

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

「クッククック」と鳴く。群れで行動する。



キジバト

★コウノトリのなかま

- ・コウノトリ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：冬。
兵庫県から飛来した個体が上空を通過。

★ウのなかま

- ・カワウ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

★サギのなかま

- ・ゴイサギ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：



ゴイサギ

通年。

近年個体数が減少。

- ・ササゴイ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：5月～10月。

- ・アマサギ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：5月～9月。

- ・アオサギ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：通年。

- ・ダイサギ／チュウダイサギ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：通年。

ダイサギは通年、チュウダイサギは夏。

- ・チュウサギ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：5月～10月。

- ・コサギ

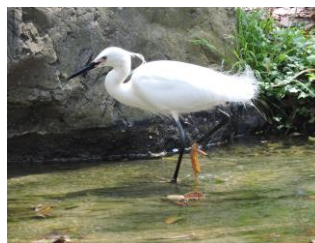
場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：通年。



アオサギ



アマサギ



コサギ



ダイサギ

★クイナのなかま

- ・クイナ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：10月～3月。

- ・ヒクイナ

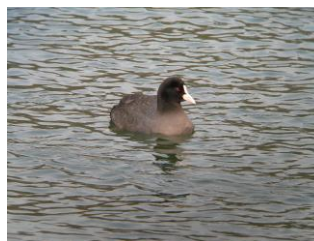
場所：石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：通年。

- ・バン

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：通年。

- ・オオバン

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺の水辺。時期：11月～3月。
近年個体数が増加。



オオバン



バン

★カッコウのなかま

- ・ジュウイチ

場所：全域。時期：4月～5月、9月。

- ・ホトトギス

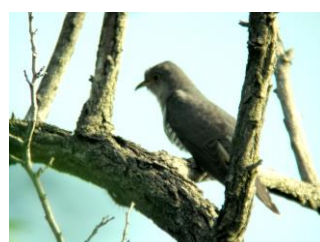
場所：全域。時期：4月～9月。

- ・ツツドリ

場所：全域。時期：4月～5月、9月。



ツツドリ



ホトトギス

- ・カッコウ

場所：全域。時期：4月～5月、9月。

★ヨタカのなかま

- ・ヨタカ

場所：金剛山。時期：5月～10月。

★アマツバメのなかま

- ・アマツバメ

場所：全域。時期：5月～10月。

- ・ヒメアマツバメ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。
太子町で繁殖。



ケリ



タゲリ

★チドリのなかま

- ・タゲリ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。
時期：11月～3月。

- ・ケリ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

- ・イカルチドリ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

- ・コチドリ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

- ・シロチドリ

場所：石川流域。時期：11月～3月。



イカルチドリ



コチドリ

★セイタカシギのなかま

- ・セイタカシギ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺、栗ヶ池共園。時期：10月～3月。

★シギのなかま

- ・ヤマシギ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

- ・アオシギ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：11月～3月。

- ・タシギ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：10月～3月。

- ・クサシギ



タシギ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：11月～3月。

- ・キアシシギ

場所：石川流域、太井川。時期：4月～5月、9月。

- ・イソシギ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

- ・ハマシギ

場所：石川流域。時期：11月～3月。
群れで行動する。



クサシギ



イソシギ

★カモメのなかま

- ・ユリカモメ

場所：石川流域。時期：12月～2月。
群れで行動する。

- ・セグロカモメ

場所：錦織公園、石川流域。時期：12月～2月。

- ・コアジサシ

場所：石川流域。時期：6月～9月。

- ・クロハラアジサシ

場所：石川流域。時期：1月～3月。



セグロカモメ



ユリカモメ

★ミサゴのなかま

- ・ミサゴ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

★タカのなかま

- ・ハチクマ

場所：全域。時期：3月～5月、9月～10月。

- ・トビ

場所：全域。時期：通年。

- ・チュウヒ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：11月～3月。

- ・ツミ

場所：全域。時期：通年。
近年個体数が増加。

- ・ハイタカ

場所：全域。時期：通年。

- ・オオタカ



トビ

場所：全域。時期：通年。

- ・サシバ

場所：全域。時期：3月～10月。

- ・ノスリ

場所：全域。時期：10月～4月。

- ・クマタカ

場所：金剛山。時期：通年。



ノスリ



オオタカ

★フクロウのなかま

- ・フクロウ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：4月～10月。

- ・アオバズク

場所：全域。時期：5月～10月。

★カワセミのなかま

- ・アカショウビン

場所：全域。時期：5月～6月、8月～9月。

- ・カワセミ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

近年個体数が復活。

- ・ヤマセミ

場所：錦織公園、石川流域。時期：12月～2月。



ヤマセミ



カワセミ

★キツツキのなかま

- ・アリスイ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：10月～3月。

- ・コゲラ

場所：全域。時期：通年。

- ・オオアカゲラ

場所：金剛山。時期：通年。

- ・アカゲラ

場所：錦織公園、金剛山。時期：錦織公園は冬、金剛山は通年。

- ・アオゲラ

場所：金剛山。時期：通年。日本特産種。



コゲラ

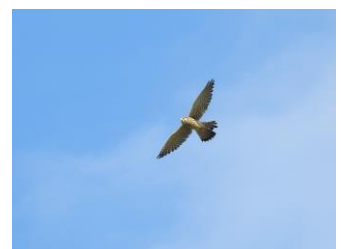
★ハヤブサのなかま

- ・チョウゲンボウ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

近年個体数が増加。太子町役場庁舎ほかで繁殖。

- ・チゴハヤブサ



チョウゲンボウ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：5月～10月。

・ハヤブサ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

★サンショウクイのなかま

・サンショウクイ

場所：全域。時期：4月～5月、8月～10月。

★カササギビタキのなかま

・サンコウチョウ

場所：全域。時期：4月～5月、8月～10月。

★モズのなかま

・モズ

場所：全域。時期：通年。大阪府の鳥。



モズ

★カラスのなかま

・カケス

場所：錦織公園、金剛山。時期：錦織公園は冬、金剛山は通年。

・ハシボソガラス

場所：全域。時期：通年。

濁った声で鳴く。農耕地に多い。

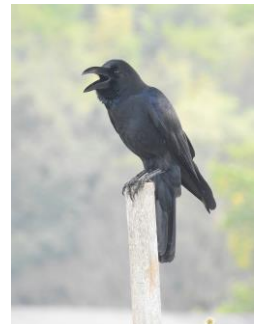
・ハシブトガラス

場所：全域。時期：通年。

澄んだ声で鳴く。森林、街中に多い。



ハシボソガラス



ハシブトガラス

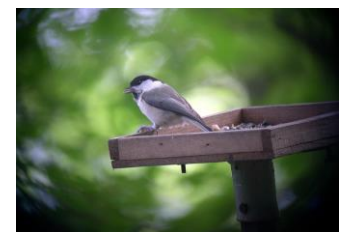
★キクイタダキのなかま

・キクイタダキ

場所：錦織公園、金剛山。時期：10月～3月。



ヤマガラ



コガラ

★シジュウカラのなかま

・コガラ

場所：金剛山。時期：通年。

・ヤマガラ

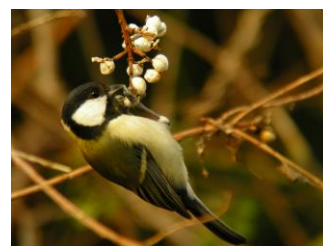
場所：全域。時期：通年。

・ヒガラ

場所：錦織公園、金剛山。時期：錦織公園は冬、金剛山は通年。

・シジュウカラ

場所：全域。時期：通年。



シジュウカラ



ヒバリ

★ヒバリのなかま

- ・ヒバリ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

★ツバメのなかま

- ・ツバメ

場所：全域。時期：3月～10月。

- ・コシアカツバメ

場所：全域。時期：4月～10月。

- ・イワツバメ

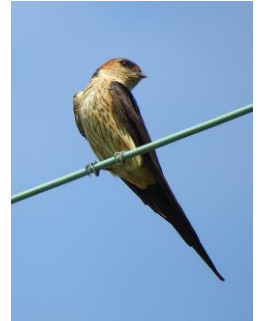
場所：全域。時期：4月～11月、石川・大伴橋では毎年越冬。



イワツバメ



ツバメ



コシアカツバメ

★ヒヨドリのなかま

- ・ヒヨドリ

場所：全域。時期：通年。



ヒヨドリ

★ウグイスのなかま

- ・ウグイス

場所：全域。時期：通年。

- ・ヤブサメ

場所：全域。時期：4月～9月。

★エナガのなかま

- ・エナガ

場所：全域。時期：通年。



エナガ

★ムシクイのなかま

- ・コムシクイ

場所：全域。時期：4月～5月、9月～10月。
「ジリリリ」と鳴く。

- ・オオムシクイ

場所：全域。時期：4月～5月、9月～10月。
「ジジロ、ジジロ、ジジロ」と3節で鳴く。

- ・メボソムシクイ

場所：全域。時期：4月～5月、9月～10月。
「チョリチョリチョリチョリ」と4節で鳴く。

- ・エゾムシクイ

場所：全域。時期：4月～5月、9月～11月。
「ヒッツアーキー」と鳴く。

- ・センダイムシクイ

場所：全域。時期：4月～5月、8月～10月。

「チョチョビー」と鳴く。「焼酎一杯グイー」と聞こえる。

★メジロのなかま

- ・メジロ

場所：全域。時期：通年。

★チメドリのなかま

- ・ソウシチョウ(外来種)

場所：錦織公園、金剛山。時期：錦織公園は冬、金剛山は通年。

★ヨシキリのなかま

- ・オオヨシキリ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：5月～10月。

「ギョギョシ、ギョギョシ」「ケケチ、ケケチ」と賑やかな声で鳴く。



オオヨシキリ

★セッカのなかま

- ・セッカ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

上昇するときは、「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と鳴き、下降するときは、「チャチャッ、チャチャッ」と鳴く。



セッカ

★レンジャクのなかま

- ・キレンジャク

場所：全域。時期：12月～4月。

- ・ヒレンジャク

場所：全域。時期：12月～4月。

★ゴジュウカラのなかま

- ・ゴジュウカラ

場所：金剛山。時期：通年。



ゴジュウカラ

★キバシリのなかま

- ・キバシリ

場所：金剛山。時期：通年。

★ミソサザイのなかま

- ・ミソサザイ

場所：金剛山。時期：通年。



ミソサザイ

よく通る大きな複雑なさえずり。鳴くときに尾羽を上げることが多い。

★ムクドリのなかま

- ・ムクドリ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺、南海金剛駅。時期：通年。
群れで行動する。

- ・コムクドリ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：4月～6月、8月～10月。

小さな群れで行動する。

- ・ハッカチョウ(外来種)

場所：錦織公園、石川流域。時期：通年。



コムクドリ



ムクドリ

★カワガラスのなかま

- ・カワガラス

場所：石川流域、金剛山、千早川。時期：通年。

★ヒタキのなかま

- ・マミジロ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～5月、9月～10月。

- ・トラツグミ

場所：全域。時期：金剛山は通年、ほかは12月～4月。

夜間に鳴く。

- ・クロツグミ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～5月、9月～10月。

- ・マミチャジナイ

場所：錦織公園。時期：3月～5月、10月～11月。

- ・シロハラ

場所：全域。時期：10月～4月。

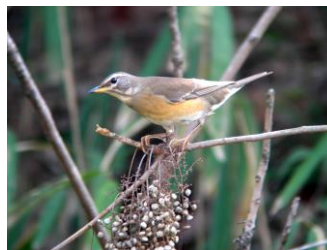
- アカハラ

場所：全域。時期：4月～5月、9月～10月。

- ・ツグミ／ハチジョウツグミ

場所：全域。時期：10月～5月。
ハチジョウツグミは全体的に赤みを帯びた褐色。

- ・コマドリ



マミチャジナイ



トラツグミ



シロハラ



アカハラ



15 ルリビタキ



ツグミ

場所：金剛山。時期：4月、8月～9月。

- ・ノゴマ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：4月～5月、9月～10月。

- ・コルリ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～5月、9月～10月。

- ・ルリビタキ

場所：錦織公園、金剛山。時期：11月～

3月。

- ・ジョウビタキ

場所：全域。時期：10月～4月。

- ・ノビタキ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺。
時期：4月、9月～12月。

- ・イソヒヨドリ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。
近年個体数が大幅に増加。

- ・エゾビタキ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～5月、9月～11月。

- ・サメビタキ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～5月、9月～10月。

- ・コサメビタキ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～5月、8月～10月。

- ・キビタキ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～11月。

- ・ムギマキ

場所：錦織公園、金剛山。時期：4月～5月、10月。

- ・ニシオジロビタキ(検討種)

場所：錦織公園。時期：12月～4月。

鳥類目録第7版では、種として独立させるか検討中とされた。

- ・オオルリ

場所：錦織公園、金剛山。時期：錦織公園は4月～5月、9月～10月、金剛山は4月～10月。



イソヒヨドリ



ジョウビタキ



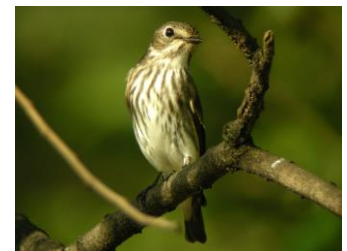
ノビタキ



サメビタキ



コサメビタキ



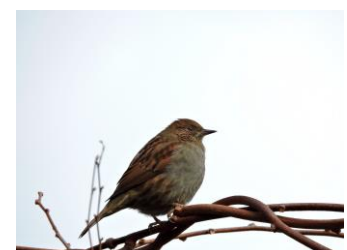
エゾビタキ



ニシオジロビタキ



オオルリ



カヤクグリ

★イワヒバリのなかま

- ・カヤクグリ

場所：金剛山。時期：11月～3月。

★スズメのなかま

- ・ニューナイスズメ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：10月～4月。

- ・スズメ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。



スズメ



ニューナイスズメ

★セキレイのなかま

- ・キセキレイ

場所：全域。時期：石川流域、佐備／寛弘寺は冬、錦織公園、金剛山は通年。

「チチン、チチン」と金属的な声で鳴く。



ハクセキレイ



キセキレイ

- ・ハクセキレイ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

「チュチュン、チュチュン」と澄んだ声で鳴く。



タヒバリ



セグロセキレイ

- ・セグロセキレイ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：通年。

「ジュジュッ、ジュジュッ」と濁った声で鳴く。古事記に「いしたたき」の名で登場。日本特産種。

- ・ビンズイ

場所：全域。時期：10月～4月。

- ・タヒバリ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：10月～4月。



ビンズイ

★アトリのなかま

- ・アトリ

場所：全域。時期：10月～4月。

大きな群れになることが多い。

- ・オオカワラヒワ／カワラヒワ

場所：全域。時期：通年。

オオカワラヒワは冬。群れで行動する。



カワラヒワ



アトリ



17 ベニマシコ



マヒワ

- ・マヒワ

場所：全域。時期：11月～4月。
群れで行動する。飛来しない年もある。

- ・ベニヒワ

場所：金剛山。時期：12月～2月。

- ・ハギマシコ

場所：錦織公園、金剛山。時期：12月～2月。

- ・ベニマシコ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺の草地。時期：10月～3月。
小さな群れで行動する。

- ・オオマシコ

場所：金剛山。時期：12月～2月。
飛来しない年もある。

- ・アカウソ／ウソ

場所：錦織公園、金剛山。時期：10月～3月。
アカウソ雄は、腹も赤い。

- ・シメ

場所：全域。時期：10月～4月。

- ・イカル

場所：全域。時期：通年。
冬は大きな群れになる。「キョコキー」と澄んだよく通る声で鳴く。



ウソ



オオマシコ



イカル



シメ

★ホオジロのなかま

- ・ホオジロ

場所：全域。時期：通年。
近年錦織公園では減少。

- ・ホオアカ

場所：石川流域、佐備／寛弘寺の草地。
時期：11月～3月。

- ・カシラダカ

場所：錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺。時期：10月～4月。

- ・ミヤマホオジロ

場所：錦織公園、金剛山。時期：11月～3月。

- ・アオジ

場所：全域。時期：10月～4月。

- ・クロジ

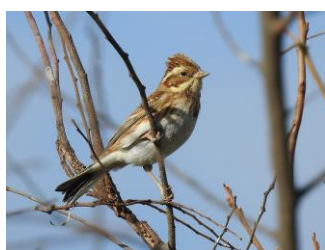
場所：錦織公園、金剛山。時期：11月～3月。



ホオアカ



ホオジロ



カシラダカ



ミヤマホオジロ

・ オオジュリン

場所：石川流域のアシ原。時期：11月～3月。

以下、南河内地域でこれまで確認できていないものの、大阪府のほかの地域で観察されたことがあり、今後、南河内でも観察される可能性がある種を取り上げます。



アオジ



クロジ

★サギのなかま

※ヨシゴイ 石川流域で春と秋。

★シギのなかま

※タカブシギ 石川流域で春と秋。

★タマシギのなかま

※タマシギ 石川流域、佐備／寛弘寺で通年。

★フクロウのなかま

※オオコノハズク 全域で通年。

※コノハズク 全域で通年。

※トラフズク 石川流域、佐備／寛弘寺で通年。

※コミミズク 石川流域、佐備／寛弘寺で冬。

★カラスのなかま

※ミヤマガラス 石川流域、佐備／寛弘寺で冬。

★ツリスガラのなかま

※ツリスガラ 石川流域、佐備／寛弘寺で冬。

★ツバメのなかま

※ショウドウツバメ 錦織公園、石川流域、佐備／寛弘寺で春と秋。

★ヒタキのなかま

※オジロビタキ 錦織公園で冬。

表1 富田林市周辺とその周辺(南河内地域)の野鳥観察データ

1992年4月1日～2019年2月1日現在

番号	科	標準和名	錦織公園			石川流域			佐備／寛弘寺			金剛山		
			確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考
4	キジ	ヤマドリ										○	通年	稀
5	キジ	キジ	○	通年	少ない	○	通年	普通	○	通年	普通			
24	カモ	オシドリ	○	冬	少ない									
26	カモ	オカヨシガモ	○	冬	少ない	○	冬	普通	○	冬	少ない			
27	カモ	ヨシガモ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない			
28	カモ	ヒドリガモ	○	冬	多い	○	冬	多い	○	冬	多い			
29	カモ	アメリカカヒドリ	○	冬	稀	○	冬	稀						
30	カモ	マガモ	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通			
32	カモ	カルガモ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通			
34	カモ	ハシビロガモ	○	冬	少ない	○	冬	普通	○	冬	普通			
35	カモ	オナガガモ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない			
36	カモ	シマアジ							○	春・秋	稀			
37	カモ	トモエガモ	○	冬	稀				○	冬	稀			
38	カモ	コガモ	○	冬	少ない	○	冬	普通	○	冬	普通			
42	カモ	ホシハジロ	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通			
43	カモ	アカハジロ	○	冬	稀									
44	カモ	メジロガモ	○	冬	稀				○	冬	稀			
46	カモ	キンクロハジロ	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通			
58	カモ	ミコアイサ	○	冬	少ない									
59	カモ	カワアイサ	○	冬	稀	○	冬	稀						
62	カイツブリ	カイツブリ	○	通年	少ない	○	通年	普通	○	通年	普通			
64	カイツブリ	カンムリカイツブリ	○	冬	稀	○	冬	稀						
74	ハト	キジバト	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
78	ハト	アオバト	○	通年	稀	○	通年	稀	○	通年	稀	○	通年	稀
119	コウノトリ	コウノトリ				○	冬	稀	○	冬	稀			
127	ウ	カワウ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通			
133	サギ	ヨシゴイ				※	春・秋	稀	※	春・秋	稀			
139	サギ	ゴイサギ	○	通年	稀	○	通年	少ない	○	通年	少ない			
141	サギ	ササゴイ				○	夏	少ない	○	夏	少ない			
143	サギ	アマサギ	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない			
144	サギ	アオサギ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い			
146	サギ	ダイサギ	○	通年	少ない	○	通年	多い	○	通年	多い			
146	サギ	チュウダイサギ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない			
147	サギ	チュウサギ				○	夏	少ない	○	夏	少ない			
148	サギ	コサギ	○	通年	少ない	○	通年	普通	○	通年	普通			
166	クイナ	クイナ				○	冬	稀	○	冬	稀			

表1 富田林市周辺とその周辺(南河内地域)の野鳥観察データ

1992年4月1日～2019年2月1日現在

番号	科	標準和名	錦織公園			石川流域			佐備／寛弘寺			金剛山		
			確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考
170	クイナ	ヒクイナ				○	通年	稀	○	通年	稀			
174	クイナ	バン	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない			
175	クイナ	オオバン	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通			
184	カッコウ	ジュウイチ	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀
185	カッコウ	ホトトギス	○	春・秋	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	普通
187	カッコウ	ツツドリ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	夏	普通
188	カッコウ	カッコウ	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	夏	普通
189	ヨタカ	ヨタカ										○	夏	少ない
192	アマツバメ	アマツバメ	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない
193	アマツバメ	ヒメアマツバメ	○	通年	稀	○	通年	稀	○	通年	稀			
194	チドリ	タゲリ				○	冬	稀	○	冬	稀			
195	チドリ	ケリ	○	通年	少ない	○	通年	普通	○	通年	普通			
202	チドリ	イカルチドリ				○	通年	普通	○	通年	普通			
203	チドリ	コチドリ				○	通年	少ない	○	通年	少ない			
204	チドリ	シロチドリ				○	冬	稀	○					
210	セイタカシギ	セイタカシギ				○	冬	稀	○	冬	稀			
212	シギ	ヤマシギ	○	通年	稀	○	通年	稀	○	通年	稀			
215	シギ	アオシギ				○	冬	稀	○	冬	稀			
219	シギ	タシギ				○	冬	少ない	○	冬	少ない			
239	シギ	クサシギ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない			
240	シギ	タカブシギ				※	春・秋	稀						
241	シギ	キアシシギ				○	春・秋	稀						
244	シギ	イソシギ	○	通年	少ない	○	通年	普通	○	通年	少ない			
261	シギ	ハマシギ				○	冬	稀						
271	タマシギ	タマシギ				※	通年	稀	※	通年	稀			
286	カモメ	ユリカモメ				○	冬	稀						
299	カモメ	セグロカモメ	○	冬	稀	○	冬	稀						
307	カモメ	コアシサシ				○	夏	少ない						
316	カモメ	クロハラアジサシ				○	冬	稀						
339	ミサゴ	ミサゴ	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない			
340	タカ	ハチクマ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない
342	タカ	トビ	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない
349	タカ	チュウヒ	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀			
354	タカ	ツミ	○	通年	稀	○	通年	稀	○	通年	稀	○	通年	稀
355	タカ	ハイタカ	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない
356	タカ	オオタカ	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない

表1 富田林市周辺とその周辺(南河内地域)の野鳥観察データ

1992年4月1日～2019年2月1日現在

番号	科	標準和名	錦織公園			石川流域			佐備／寛弘寺			金剛山		
			確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考
357	タカ	サシバ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない
358	タカ	ノスリ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない
364	タカ	クマタカ										○	通年	稀
366	フクロウ	オオコノハズク	※	通年	稀	※	通年	稀	※	通年	稀	※	通年	稀
367	フクロウ	コノハズク	※	夏	稀	※	夏	稀	※	夏	稀	※	夏	稀
372	フクロウ	フクロウ	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない			
374	フクロウ	アオバズク	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない
375	フクロウ	トラフズク				※	通年	稀	※	通年	稀			
376	フクロウ	コミミズク				※	冬	稀	※	冬	稀			
378	カワセミ	アカシヨウビン	○	夏	稀	○	夏	稀	○	夏	稀	○	夏	稀
383	カワセミ	カワセミ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通			
385	カワセミ	ヤマセミ	○	冬	稀	○	冬	稀						
388	キツツキ	アリスイ				○	冬	稀	○	冬	稀			
390	キツツキ	コゲラ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通
392	キツツキ	オオアカゲラ										○	通年	少ない
393	キツツキ	アカゲラ	○	冬	稀	○	冬	稀				○	冬	稀
397	キツツキ	アオゲラ										○	冬	稀
401	ハヤブサ	チヨウゲンボウ	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない			
404	ハヤブサ	チゴハヤブサ	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀			
407	ハヤブサ	ハヤブサ	○	通年	少ない	○	通年	少ない	○	通年	少ない			
412	サンショウクイ	サンショウクイ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない
418	カササギヒタキ	サンコウチヨウ	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀
420	モズ	モズ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通
427	カラス	カケス	○	冬	少ない							○	通年	普通
434	カラス	ミヤマガラス				※	冬	稀	※	冬	稀			
435	カラス	ハシボソガラス	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
436	カラス	ハシブトガラス	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
438	クイタダキ	クイタダキ	○	冬	少ない							○	冬	少ない
439	ツリスガラ	ツリスガラ				※	冬	稀	※	冬	稀			
441	シジュウカラ	コガラ										○	通年	少ない
442	シジュウカラ	ヤマガラ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
443	シジュウカラ	ヒガラ	○	通年	稀							○	通年	普通
445	シジュウカラ	シジュウカラ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
452	ヒバリ	ヒバリ	○	通年	少ない	○	通年	普通	○	通年	普通			
455	ツバメ	シヨウドウツバメ	※	春・秋	稀	※	春・秋	稀	※	春・秋	稀			
457	ツバメ	ツバメ	○	夏	普通	○	夏	普通	○	夏	普通	○	夏	普通

表1 富田林市周辺とその周辺(南河内地域)の野鳥観察データ

1992年4月1日～2019年2月1日現在

番号	科	標準和名	錦織公園			石川流域			佐備／寛弘寺			金剛山		
			確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考
459	ツバメ	コシアカツバメ	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない
461	ツバメ	イワツバメ	○	夏	普通	○	通年	普通	○	夏	普通	○	夏	普通
463	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
464	ウグイス	ウグイス	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
465	ウグイス	ヤブサメ	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない	○	夏	少ない
466	エナガ	エナガ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通
475	ムシクイ	コムシクイ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない
476	ムシクイ	オオムシクイ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない
477	ムシクイ	メボソムシクイ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない
479	ムシクイ	エゾムシクイ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない
480	ムシクイ	センダイムシクイ	○	春・秋	普通	○	春・秋	普通	○	春・秋	普通	○	春・秋	普通
485	メジロ	メジロ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
492	ヨシキリ	オオヨシキリ				○	夏	普通	○	夏	普通			
499	セツカ	セツカ				○	通年	普通	○	通年	普通			
500	レンジャク	キレンジャク	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀
501	レンジャク	ヒレンジャク	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀
502	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ							○	通年	普通	○	通年	普通
503	キバシリ	キバシリ							○	通年	稀	○	通年	稀
504	ミソサザイ	ミソサザイ										○	通年	普通
506	ムクドリ	ムクドリ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い			
508	ムクドリ	コムクドリ	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀			
512	カワガラス	カワガラス				○	通年	稀				○	通年	稀
513	ヒタキ	マミジロ	○	春・秋	稀				○			○	春・秋	稀
514	ヒタキ	トラツグミ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	夏	少ない
518	ヒタキ	クロツグミ	○	春・秋	少ない							○	春・秋	少ない
520	ヒタキ	マミチャジナイ	○	春・秋	稀									
521	ヒタキ	シロハラ	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通
522	ヒタキ	アカハラ	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない	○	春・秋	少ない
525	ヒタキ	ツグミ	○	冬	多い	○	冬	多い	○	冬	多い	○	冬	多い
525	ヒタキ	ハチジョウツグミ	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀
530	ヒタキ	コマドリ							○			○	春・秋	稀
533	ヒタキ	ノゴマ	○	春・秋	稀	○	春・秋	稀		春・秋	稀			
534	ヒタキ	コルリ	○	春・秋	稀				○			○	春・秋	稀
536	ヒタキ	ルリビタキ	○	冬	普通				○			○	冬	普通
540	ヒタキ	ジョウビタキ	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通
542	ヒタキ	ノビタキ				○	春・秋	普通	○	春・秋	普通			

表1 富田林市周辺とその周辺(南河内地域)の野鳥観察データ

1992年4月1日～2019年2月1日現在

番号	科	標準和名	錦織公園			石川流域			佐備／寛弘寺			金剛山		
			確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考
549	ヒタキ	イソヒヨドリ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通			
552	ヒタキ	エゾビタキ	○	春・秋	普通							○	春・秋	普通
553	ヒタキ	サメビタキ	○	春・秋	少ない							○	春・秋	普通
554	ヒタキ	コサメビタキ	○	春・秋	普通							○	春・秋	普通
558	ヒタキ	キビタキ	○	夏	普通							○	夏	普通
559	ヒタキ	ムギマキ	○	春・秋	稀							○	春・秋	稀
560	ヒタキ	オジロビタキ	※	冬	稀									
560	ヒタキ	ニシオジロビタキ	○	冬	稀									
561	ヒタキ	オオルリ	○	春・秋	普通							○	夏	普通
566	イワヒバリ	カヤクグリ										○	冬	少ない
568	スズメ	ニュウナイスズメ	○	冬	稀	○	冬	少ない	○	冬	少ない			
569	スズメ	スズメ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い			
573	セキレイ	キセキレイ	○	通年	普通	○	冬	普通	○	冬	普通	○	通年	普通
574	セキレイ	ハクセキレイ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い			
575	セキレイ	セグロセキレイ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通			
580	セキレイ	ビンズイ	○	冬	少ない	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通
584	セキレイ	タヒバリ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない			
586	アトリ	アトリ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	普通
587	アトリ	オオカワラヒワ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない
587	アトリ	カワラヒワ	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い	○	通年	多い
588	アトリ	マヒワ	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀	○	冬	稀
589	アトリ	ベニヒワ										○	冬	稀
591	アトリ	ハギマシコ	○	冬	稀							○	冬	稀
592	アトリ	ベニマシコ				○	冬	少ない	○	冬	少ない			
595	アトリ	オオマシコ										○	冬	稀
599	アトリ	アカウソ	○	冬	稀							○	冬	稀
599	アトリ	ウソ	○	冬	稀							○	冬	普通
600	アトリ	シメ	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通
602	アトリ	イカル	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通
610	ホオジロ	ホオジロ	○	通年	少ない	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通
614	ホオジロ	ホオアカ				○	冬	稀	○	冬	稀			
617	ホオジロ	カシラダカ	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない	○	冬	少ない
618	ホオジロ	ミヤマホオジロ	○	冬	稀							○	冬	少ない
624	ホオジロ	アオジ	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通	○	冬	普通
625	ホオジロ	クロジ	○	冬	少ない							○	冬	少ない
628	ホオジロ	オオジュリン				○	冬	少ない						

表1 富田林市周辺とその周辺(南河内地域)の野鳥観察データ

1992年4月1日～2019年2月1日現在

番号	科	標準和名	錦織公園			石川流域			佐備／寛弘寺			金剛山		
			確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考	確認	季節	備考
ー	キジ	コジュケイ	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通
ー	ハト	カワラバト	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通	○	通年	普通
ー	チメドリ	ソウシチヨウ	○	冬	稀							○	通年	普通
ー	ムクドリ	ハッカチヨウ	○	通年	稀	○	通年	稀						
			138	138	138	142	142	142	130	130	130	94	94	94

- * 番号は、日本鳥学会『日本鳥類目録 改訂第7版』の番号による。
- * 同一番号が付されている種は、野外識別が可能な亜種を示している。
- * 「ー」が付されている種は、外来種(人為的に国外から持ち込まれたもの)を示している。
- * 場所に含まれる地域は、次のとおり。
 - 錦織公園： 南海・滝谷駅～錦織公園、近鉄・滝谷不動駅～錦織公園の区域を含む。
 - 石川流域： 汐ノ宮・千代田橋～太井川合流地点までの石川河川敷内と堤防の内外の隣接地、支流を含む。
 - 佐備・寛弘寺： 富田林市佐備周辺～河南町寛弘寺周辺を含む石川の東側に広がる農耕地・丘陵一体。
 - 金剛山： 金剛山山頂を中心に各登山道を含む地域。
- * 確認欄の○印は、1992年以降、2019年までの記録。※印は、生息の可能性があるものを示す。
- * 季節欄の用語の意味は、次のとおり。
 - 通年： この地域で年間を通じて確認することができ、繁殖している種。
 - 夏： 夏にこの地域で確認することができ、繁殖している種。
 - 春・秋： この地域を春と秋に通過する種。
 - 冬： この地域で越冬する種。
- ※ 富田林市を基準としているため、各種図鑑に記載されている「留鳥」「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」とは若干異なる。

この一覧表は、個人データの蓄積に過ぎません。お住まいの地域で、この時期に「こんな鳥を見たよ」、「こんな鳴き声を聞いたよ」という情報をお持ちかもしれません。また、一覧表に※印を付した種は、大阪府内のほかの地域での観察例があり、同じような環境で観察される可能性はあるものを示しています。通勤や通学の途中、散歩やジョギングの途中で気づいたことや観察した情報などは、たいへん貴重なデータとなります。お寄せいただければ幸いです。

phoenicurus_auroreus@tulip.ocn.ne.jp または 090-8653-9165

生物多様性保全のための基礎調査

～H30 年度「自然環境保全活用調査その 17」報告書より抜粋～

(1) 富田林の鳥類についての文献調査

① 調査文献

富田林市の「生物多様性地域戦略」の策定に向けたデータ収集として、既存の文献から市域に生育する鳥類の情報をピックアップした。調査した既存文献はそれぞれ目的が異なりデータの精度もまちまちであるが、過去の鳥類の記録として重要であり、生物多様性保全の基礎データになる。

今回調査したのは下記の文献であるが、このうち鳥類の専門家による調査記録は、No.1、2、4、10 で、それに順ずる記録（野鳥の専門知識をもつアマチュアによる）は、No.3、5、6、7、8、9、11、14 である。その他のNo.13、15 は一般ボランティアなどによる記録メモである。

No.1 大阪府鳥類目録 2001

- ・調査時期 1945 (S20) 年～2001 (H13) 年
- ・調査場所 大阪府内
- ・調査者 日本野鳥の会大阪支部

No.2 大阪府鳥類目録 2016

- ・調査時期 2002 (H14) 年～2016 (H28) 年
- ・調査場所 大阪府内
- ・調査者 日本野鳥の会大阪支部

No.3 滝谷地区の自然保護

- ・調査時期 1985 (S60) 年
- ・調査場所 富田林市滝谷地区
- ・調査者 津田貴司
- ・掲載文献 「都市と自然」大阪自然環境保全協会 1985 年 8 月号 No.113

No.4 鳥類出現種

- ・調査時期 1988 (S63) 年 6 月、10 月
- ・調査場所 富田林市佐備及び甘南備地区
- ・調査者 不明
- ・掲載文献 「富田林市公園墓地・斎場・総合運動場建設事業関連 生物調査報告書」, 富田林市, 1988 (S63) 年 10 月

No.5 奥の谷の野鳥

- ・調査時期 2016 (H28) 年～2019 (H31) 年
- ・調査場所 富田林市奥の谷地区
- ・調査者 田淵武夫ほか 8 名 (モニタリング 1000 里地調査植物及び蝶の調査時に記録, 担当者は富田林の自然を守る会会員及び大阪自然環境保全協会会員)
- ・掲載文献 未発表資料

No.6 辰池・星ヶ池周辺の観察リスト

- ・調査時期 1987 (S62) 年～1995 (H7) 年
- ・調査場所 辰池、星ヶ池 (貴志)
- ・調査者 石塚和子 (富田林市立第三中学校)
- ・掲載文献 「フィールドだより喜志No.7 1997 年 6 月 16 日 資料」
(「自然環境保全活用調査その 12 報告書」富田林市 H26 年 3 月) に収録)

No.7 富田林周辺とその周辺の野鳥観察データ

- ・調査時期 1992 (H4) ～2018 (H30) 年
- ・調査場所 錦織公園、石川流域、佐備/寛弘寺、金剛山
- ・調査者 上村賢 (日本野鳥の会大阪支部)
- ・掲載文献 未発表資料

No.8 錦織公園とその周辺の野鳥観察データ

- ・調査時期 2001 (H13) ～2008 (H20) 年
- ・調査場所 大阪府営錦織公園
- ・調査者 上村賢 (日本野鳥の会大阪支部)
- ・掲載文献 「富田林の自然 No.7」 富田林の自然を守る市民運動協議会 2009 (H21) 年 3 月

No.9 錦織公園野鳥観察会(富田林の自然を守る市民運動協議会主催) 観察記録

- ・調査時期 2009 (H21) ～2017 (H29) 年
- ・調査場所 大阪府営錦織公園
- ・調査者 上村賢 (観察会講師：日本野鳥の会大阪支部)
- ・掲載文献 未発表資料

No.10 確認鳥類リスト

- ・調査時期 1993 (H5) 年 8 月、10 月、12 月
- ・調査場所 大阪府営石川河川公園 自然ゾーン
- ・調査者 不明
- ・掲載文献 「石川河川公園自然ゾーン整備手法作成委託 鳥類調査報告書」
大阪府南部公園事務所, 大阪府公園都市緑化協会, (株)都市緑地研究所 1994 (H6) 3 月

No.11 石川自然ゾーンの野鳥たち

- ・調査時期 1994 (H6) 年～1995 (H7) 年
- ・調査場所 大阪府営石川河川公園 自然ゾーン
- ・調査者 石塚和子 (富田林市立第三中学校)
- ・掲載文献 「石川あすかプランを考える市民連絡会」運営会議 1996 年 1 月 18 日 資料

No.12 石川流域講座 野鳥観察記録

- ・調査時期 2002 (H14) 年～2004 (H16) 年
- ・調査場所 大阪府営石川河川公園 自然ゾーン
- ・調査者 石塚和子 (富田林市立第三中学校)：講師
- ・掲載文献 「石川河川公園自然ゾーンボランティア運営支援委託報告書」大阪府南部公園事務所,
(特非) 里山倶楽部 2003 (H15)、2004 (H16)、2005 (H17) 3 月

No.13 府営公園における貴重な生物一覧

- ・調査時期 2005 (H17) 年
- ・調査場所 大阪府営石川河川公園 自然ゾーン
- ・調査者 石川自然クラブ
- ・掲載文献 未発表資料

No.14 石川河川公園 野鳥観察記録

- ・調査時期 2012 (H24) 年～2018 (H30) 年
- ・調査場所 大阪府営石川河川公園 駒ヶ谷地区 (羽曳野市)
- ・調査者 風間美穂 (きしわだ自然資料館)、中村進 (大阪府鳥獣保護員)：観察会講師
- ・掲載文献 未発表資料

No.15 石川河川公園自然ゾーンの野鳥記録

- ・調査時期 2013 (H25) 年～2018 (H30) 年
- ・調査場所 大阪府営石川河川公園 自然ゾーン
- ・調査者 石川自然クラブ、公園職員
- ・掲載文献 未発表資料

② 鳥類目録の作成

これらの文献に記載された鳥類すべてを一覧表とし、富田林市の鳥類目録としてとりまとめた (富田林市内での調査が少ないため近隣地域の記録を含めた目録とした)。鳥類の総種類数は 236 種で、このうち、大阪府のレッドデータブック掲載種は 63 種、環境省のレッドデータ掲載種は 16 種であった。また特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種は、1 種 (ソウシチョウ) であった。なお、一般の人にもわかりやすいよう種名の記載は五十音順とした。

(2) 生物多様性保全の取組みについて

① 調査結果のまとめ

●絶滅危惧種の状況

大阪府レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類の猛禽類やコアジサシは2008年以前の古い記録が多く、2013年のウズラの記録が目立つ。Ⅱ類では、アマサギ、イカルチドリは比較的広範囲の市域で現在も確認されているが、その他のシギ類やフクロウ類などは限られた記録で、うちコミミズクは2005年に石川河川敷で死体が採取された記録のみである。準絶滅危惧種のうち、シギ・チドリ類のイソシギ、クサシギ、ケリ、コチドリ、猛禽類のオオタカ、ノスリ、フクロウ、ほかコシアカツバメ、トラツグミ、ヒバリ、カシラダカなどは広く記録が見られるが、シギ類の多くは大阪府鳥類目録（文献No. 1,2）のみの記録である。また、錦織公園で観察記録のあるオオコノハズク、コノハズクは評価のための情報が不足している種となっている。

<大阪府レッドデータブック 2014 掲載種>

※ 環境省レッドデータブック掲載種

・絶滅危惧Ⅰ類

- | | | |
|----------|---|--------------------------------|
| 1. ウズラ | ※ | (2013 嬉石川) |
| 2. コアジサシ | ※ | (2001～08 錦織公園、1994,95 石川) |
| 3. クマタカ | ※ | (2001～08 錦織公園) |
| 4. サシバ | ※ | (1988 佐備甘南備、1988～石川、2001～錦織公園) |
| 5. チュウヒ | ※ | (2001～錦織公園) |
| 6. ハチクマ | ※ | (2001～錦織公園、1988～石川、1998 金胎寺山) |

・絶滅危惧Ⅱ類

- | | | |
|-------------|---|---|
| 7. アマサギ | | (1987～95 辰池星ヶ池、2001～錦織公園、2014 彼方) |
| 8. ミゾゴイ | ※ | (大阪府鳥類目録) |
| 9. ヨシゴイ | ※ | (2001～08 錦織公園) |
| 10. ヒクイナ | ※ | (2001～08 錦織公園、2012,13 別井千早川) |
| 11. ヨタカ | ※ | (1991 宮町、2001～08 錦織公園) |
| 12. アオアシシギ | | (1987～95 辰池星ヶ池、2014 栗ヶ池) |
| 13. ウズラシギ | | (大阪府鳥類目録) |
| 14. オバシギ | | (大阪府鳥類目録) |
| 15. キョウジョシギ | | (大阪府鳥類目録) |
| 16. ソリハシシギ | | (1994,95 石川) |
| 17. タカブシギ | ※ | (1993 石川、2001～08 錦織公園) |
| 18. ツルシギ | ※ | (大阪府鳥類目録) |
| 19. ヒバリシギ | | (大阪府鳥類目録) |
| 20. イカルチドリ | | (1987～95 辰池、2001～錦織、1988～石川、2012～15 寅ヶ池) |
| 21. シロチドリ | ※ | (2001～08 錦織公園) |
| 22. ムナグロ | | (大阪府鳥類目録) |
| 23. メダイチドリ | | (大阪府鳥類目録) |
| 24. ツミ | | (2001～錦織公園、1988～石川) |
| 25. アオバズク | | (1985 滝谷、2001～08 錦織、1988～2001 石川、1994,95 南大伴) |
| 26. コミミズク | | (2005 石川) |
| 27. トラフズク | | (1992～錦織公園) |
| 28. サンショウクイ | | (2001～08 錦織公園、2014,15 金胎寺山) |
| 29. コサメビタキ | | (2001～08 錦織公園、2002～石川) |



7. アマサギ



8. ミソゴイ



20. イカルチドリ



26. コミズク



27. トラフズク



29. コサメビタキ

写真：7, 20, 29 上村賢、8 小竹瑞江、26 寺川裕子、27 寺田和弘

・準絶滅危惧種

- | | |
|--------------|--|
| 30. ウミアイサ | (大阪府鳥類目録) |
| 31. クイナ | (1987～95 辰池星ヶ池、2001～08 錦織公園、2013 別井千早川) |
| 32. ツツドリ | (2001～錦織公園) |
| 33. イソシギ | (1987～95 辰池星ヶ池、2001～08 錦織公園、1993～石川) |
| 34. エリマキシギ | (大阪府鳥類目録) |
| 35. オオジシギ ※ | (大阪府鳥類目録) |
| 36. オジロトウネン | (大阪府鳥類目録) |
| 37. キアシシギ | (1988～石川) |
| 38. クサシギ | (1992,1987～95 辰池、1988～石川、2001～錦織公園) |
| 39. コアオアシシギ | (大阪府鳥類目録) |
| 40. タシギ | (2001～08 錦織公園、1993～石川、2014 別井寅ヶ池) |
| 41. チュウシャクシギ | (大阪府鳥類目録) |
| 42. トウネン | (1987～95 辰池) |
| 43. ケリ ※ | (1987～95 辰池、1988～石川、1993 通法寺、2001～錦織公園) |
| 44. コチドリ | (1987～95 辰池、1988～石川、2001～08 錦織公園) |
| 45. タゲリ | (1988～2001 石川、2001～08 錦織公園) |
| 46. オオタカ ※ | (1987～95 辰池、1988～石川、2001～錦織公園、2012 龍泉) |
| 47. ノスリ | (1987～95 辰池、1988～石川、2001～錦織公園) |
| 48. フクロウ | (2001～08 錦織公園、2005 石川、2011 須賀) |
| 49. ヤマセミ | (1992,2001～08 錦織公園、1998～2001 石川) |
| 50. カワガラス | (2002～16 石川) |
| 51. ゴジュウカラ | (大阪府鳥類目録) |
| 52. セッカ | (2001～08 錦織公園、1988～石川、2013 甲田) |
| 53. コシアカツバメ | (1987～95 辰池、1988 佐備、1988～石川、2001～錦織公園) |
| 54. トラツグミ | (1988 佐備、1988～石川、1991 宮町、2001～錦織公園) |
| 55. ヒバリ | (1988～石川、2001～錦織公園、2012 佐備) |
| 56. オオジュリン | (1987～95 辰池、2001～08 錦織公園、2002 石川) |
| 57. カシラダカ | (1987～95 辰池、1988～石川、2001～錦織公園、2014 北大伴) |
| 58. ホオアカ | (1994,95 石川、2001～08 錦織公園、2009 西板持、2012 佐備) |
| 59. ミヤマホオジロ | (2001～錦織公園) |
| 60. センダイムシクイ | (2001～錦織公園、2002～石川) |
| 61. オオヨシキリ | (1987～95 辰池、1988～石川、1999 彼方、2001～08,12 錦織) |



33. イソシギ



38. クサシギ



40. タシギ



43. ケリ



44. コチドリ



45. タゲリ



46. オオタカ



47. ノスリ



49. ヤマセミ



51. ゴジュウカラ



52. セツカ



53. コシアカツバメ



54. トラツグミ



55. ヒバリ



57. カシラダカ



58. ホオアカ



59. ミヤマホオジロ



61. オオヨシキリ

写真：33～61 上村賢

・情報不足

62. オオコノハズク (1992～錦織公園)
63. コノハズク (1992～錦織公園)

＜石川河川敷に飛来したコウノトリ（移入種）＞

日本野鳥の会大阪支部「むくどり通信」より（No.251 2018年1月号）

観察 report ■コウノトリ 千葉から飛来 石川河川敷（羽曳野市・富田林市）

◎コウノトリ 10/25～28 羽曳野市 石川河川敷 1羽
石川と梅川合流点近くの右岸で、1羽のコウノトリを見ました。
背中が発信機。足環は右に上から黄・黒、左に上から黒・青が確認
できました。浅瀬の水溜りで、小魚をしきりについばんでいました。
（服部利也さん 会員外）

◎コウノトリ 10/25～26 石川と梅川の合流地点付近
非常に大きい鳥と感じました。（山田文夫）写真

◎コウノトリ 10/27～30 富田林市石川 1羽
石川河川公園の複数の巡視員が3日連続で目撃しました。台風の水
後で広がった河原で採餌していたようです。その後、石川河川公園
の職員の方が足環を確認して兵庫県コウノトリの郷公園に連絡した
ところ、千葉から来た“ひかる”君（オス 1才）とわかりました。
【以下、詳細情報】
2016年 3月 千葉県野田市「こうのとりの里」生まれ
2016年 6月 千葉県野田市から放鳥
2017年 10月 15日 神戸で目撃
2017年 10月 25日～31日 石川河川公園
2017年 11月 1日 浜松～豊橋
台風後で広がった河原が、良いえさ場に見えたのかもしれません。
また来てくれるのを期待したいと思います。（寺川裕子）

写真 コウノトリ 2017.10.25（山田文夫）

※千葉県野田市「コウノトリ放鳥情報」<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/oshirase/seikatsukankyo/1006581.htm> には、これ
まで同市で放鳥された5個体の位置情報が公開されている。ひかる君は、12月15日現在静岡市周辺で滞在中。大阪では豊岡で放鳥され
たコウノトリはよく観察されるが、千葉からの飛来は初めての記録となった。

●特定外来生物の状況

調査記録のうち特定外来生物に指定されている鳥類は、ソウシチョウ1種（2016～奥の谷、2002～錦織公園）である。なお、生態系被害防止外来種リスト※の掲載種は記録されていない。



ソウシチョウ

写真：Wikipedia

※生態系被害防止外来種リスト

（我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 平成26年度公表）

生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものを生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種のリストであるが、特定外来生物及び未判定外来生物以外は外来生物法に基づく規制の対象にはならない。

なお、本リストの作成をもって、要注意外来生物は発展的に解消される。

～環境省資料より抜粋～

③ 富田林の野鳥について生物多様性保全の視点からの提案

●市域全体の鳥類調査

今回の文献調査で作成した目録のうち、専門家による詳細な現地調査のデータは、1988の富田林市佐備及び甘南備地区、1993年と2002~2005年の石川河川公園自然ゾーンで、それに準ずる確実なデータは日本野鳥の会大阪支部の上村氏による錦織公園などの記録だけである。日本野鳥の会大阪支部の目録は大阪府全域の鳥類の記録を網羅的に掲載したものであり、その他の文献はアマチュアやボランティアによるもの、さらに調査場所も石川河川公園、奥の谷、錦織公園が中心となっていて、多くの市域は鳥類の観察や調査が行われていない状況にある。

富田林の鳥類の生息状況を把握して生物多様性保全の戦略を練るためには、市域全体の鳥類調査を実施して絶滅危惧種や外来種の状況を把握し、過去の記録と比較することで、より効果的な施策を検討することが求められる。

●絶滅危惧種の保全対策

錦織公園や石川河川公園で鳥類の観察・調査が多く実施されているのは、野鳥の生息に適した環境があり確認される種類も多いためである。絶滅危惧Ⅰ類のコアジサシやⅡ類のシギ・チドリ類は河川敷や草地、オオタカなどの猛禽類は里山～農地・草地などを主な生息地としており、錦織公園や石川河川公園にはこれらの環境がある程度残されている。

しかしながら、石川では増水によるフラッシュの減少、クズや外来草本の侵入などによりオギ・セイタカヨシなどの草地環境が減少しており、また錦織公園の樹林地や周辺の丘陵・山地では、手入れ不足や人為的開発などで良好な里山環境が維持されなくなっている。

「富田林の自然を守る会」などボランティアや市民団体による環境保全の取り組みもされているが、活動の対象となる地域は限られており、広い地域を移動する野鳥の保護のためには、ピンポイント的な保全対策だけでなく、市域全域や隣接市町村、大阪府とも連携した取り組みが求められる。



石川河川敷のオギ草地



奥の谷の里山環境

●身近な野鳥保護の取り組み

日本野鳥の会大阪支部で定期的に行っている野鳥観察会（錦織公園、石川上流部（河内長野））には毎回多くの参加者があり、継続的な鳥類の観察データを得るとともに野鳥保護の啓発に効果をあげている。また奥の谷では、ここ数年来、フクロウの営巣が確認されており、外敵（アライグマ?）のために利用されなくなった樹洞のかわりとなる巣箱の設置も行われている。このような巣箱設置の試みは河内長野市などでも実施されて成果が出ている。

大阪府レッドデータブックには、富田林市域では比較的身近にみられるケリ、ヒバリ、オオヨシキリなども準絶滅危惧種として掲載されている。身近な野鳥に親しめる観察会や巣箱設置などの機会をを通じて関心層を増やし、野鳥の生息できる自然環境保全の取り組みのすそ野を広げることが必要と考えられる。



(3) 補足現地調査（台風 21 号およびナラ枯れ被害調査）

2018（H30）年 9 月 4 日の台風 21 号の影響で、奥の谷にも多大な風倒木被害が発生した。また、ここ数年来、ナラ枯れ被害も目立ってきているため、あわせて現地調査を行った。

調査日：2018（H30）年 11 月 27 日 調査者：田淵、喜田、寺川

1) スギ倒木 1 本

小屋の向かい側 南向き斜面 ／ 倒れる方向が南にずれていたら小屋に被害が生じていた。



2) ヒノキ倒木 約 20 本

道路沿い 東向き斜面 ／ 2017 年に斜面が崩れて土砂が全面の畑に流出、2018 年に倒木被害



3) ヒノキ倒木 約 50 本

果樹園沿い 西向き斜面 ／ 2001 年の間伐箇所、斜面も崩壊したため崩れた山道を新たに復旧



4) スギ、コナラ倒木 約 10 本

谷奥 南西向き斜面 / スギやコナラの単木が少し離れた箇所で倒れている。



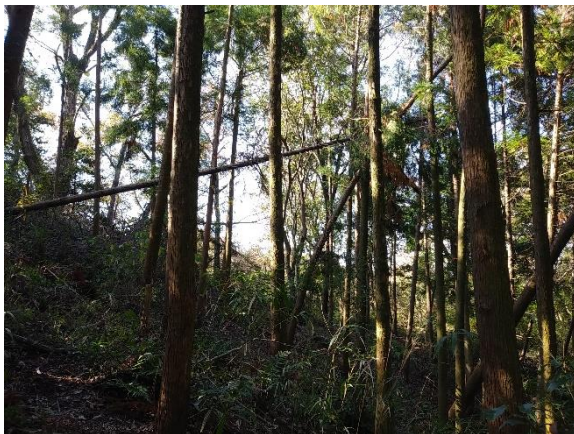
5) コナラ倒木 約 10 本、ナラ枯れ 5 本

尾根沿い 南東向き斜面 / 風倒木およびナラ枯れの大木が斜面に点在している。



6) ヒノキ倒木 約 20 本

尾根下 南西向き斜面 / 林内に倒れこんだヒノキが散見される。



7) コナラ倒木 4本、ナラ枯れ 12本

尾根の両側斜面 ／ ナラ枯れが多数発生しており、道沿いには根が起きたコナラが見られる。



8) ヒノキ倒木多数（管理対象区域外）

林道沿い 東向き斜面 ／ ヒノキが面的に倒木。道の反対側はセンダンなどの明るい林がある。

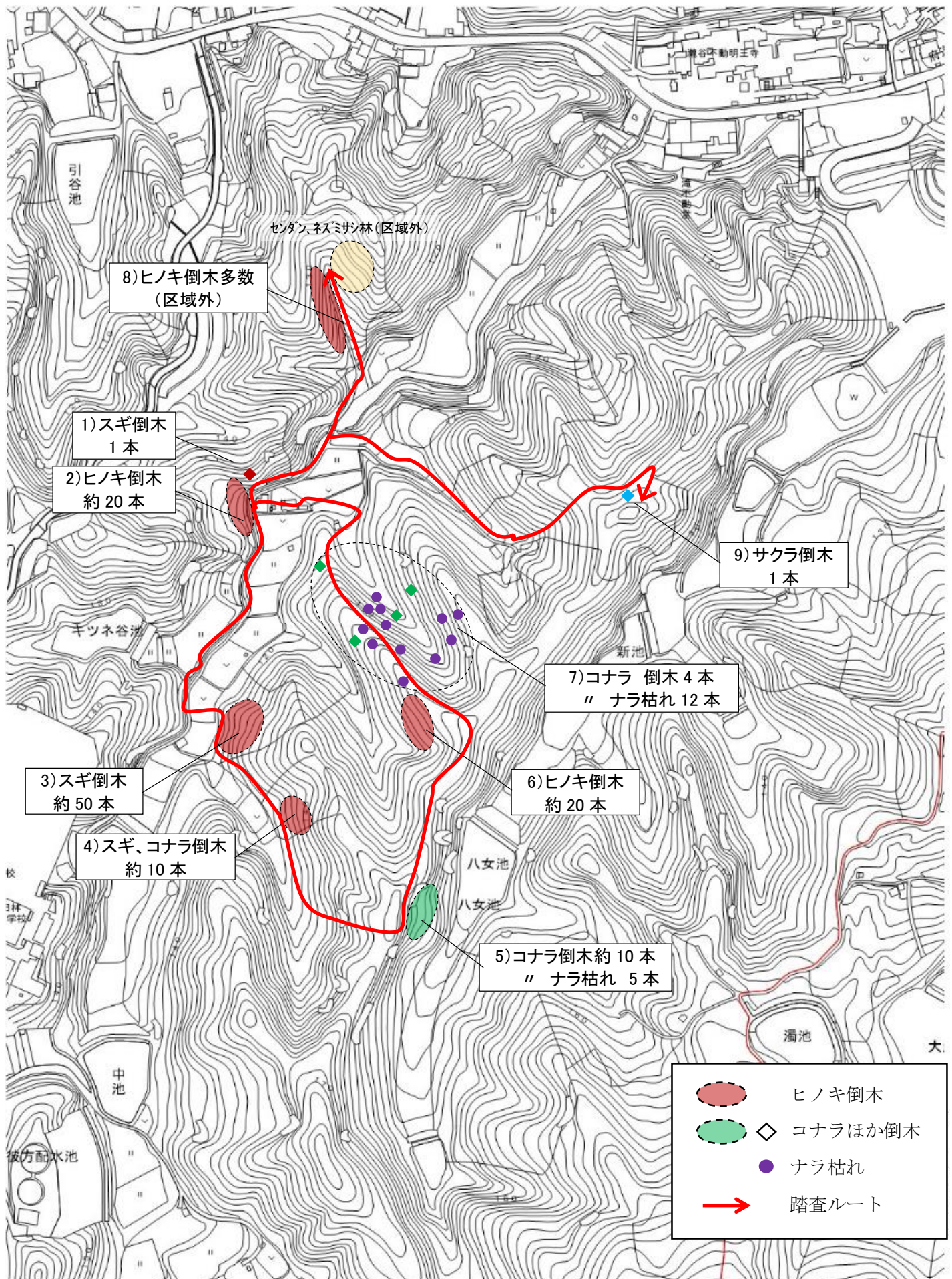


9) サクラ倒木（幹折れ） 1本

見晴らし台につづく尾根上 ／ サクラの大木が根本近くで幹折れしている。



＜奥の谷地区 台風 21 号およびナラ枯れ被害調査図＞



富田林の自然を守る市民運動協議会

2018年度の活動の記録

I. 2018 年度の活動の概要

1. 自然環境保全活動（生態系保全、生物多様性保全）

(1) 里山保全活動

- ①雑木林の林床管理（下樵りを中心に）
- ②人工林（スギ・ヒノキ林）の管理（間伐・枝打ちなど）
- ③竹林管理（雑木林および人工林に侵入したタケの除伐、竹林としての管理）
- ④作業路（観察路）造り
- ⑤草地管理（放棄田とその畦、溜池の土手などの草刈り）
- ⑥水生生物の保護と育成（水の生き物池の管理）

(2) 河岸段丘崖の竹林整備

中野町の竹林管理

2. 文化的行事（自然とのふれあい、自然に親しむ、自然への理解を深める活動）

- ①米作り体験（田植え、稲刈り、稲こぎ）
- ②春の野草を食べる
- ③シイタケの植菌
- ④里山クラフト（蔓細工）
- ⑤どんどこもちつき
- ⑥自然観察（植物、昆虫、野鳥、水生生物）

3. 自然観察・調査研究・政策提言活動など

- ①自然観察会（上記の文化的活動と共通）
- ②自然環境保全活用調査（以後：活用調査）
- ③「富田林の自然」誌 No. 17 の発行
- ④生物多様性に関する取り組み

4. 協議会参加団体の活動への支援・援助

5. 協議会と守る会の活動のまとめ（これら当協議会（以後：協議会）の多くの事業は富田林の自然を守る会（以後：守る会）と一体的に取り組まれた）。

6. 2018 年度の活動などで特徴的だったこと

II. 具体的な活動

1. 自然環境保全活動（生態系保全活動）

(1) 里山保全活動（表 1）

表 1 に示すように「里山ホリデー」（おむね月 1 回日曜日に実施）、「里山保全作業と交流会」（午前は里山保全作業を午後は交流会）、「自然観察路の整備」（嶽の会が主体）の 3 つの行事で取り組んだ。2018 年 9 月 4 日に大阪を襲った台風 21 号により奥の谷にも大きな被害が出た。それ以後の活動の多くは風倒木の処理など観察路の復旧が中心となった。これらの活動への参加者数は延べ 68 人であった。シイタケの植菌は 3 月 10 日に予定していたが、雨天中止となったので 4 月 13 日に NICE 週末キャンプの作業として行った。

表1 里山保全活動

開催日時				行事名	作業内容	参加人数			参加者
年	月	日	曜			大人	子ども	計	
2018	4	15	日	里山ホリデー	雨天中止	—	—	—	
2018	5	20	日	里山ホリデー	溜池周辺の草刈り	17	0	17	水利組合、初芝校、NICE、守る会の協働
2018	7	22	日	里山ホリデー	田の草取り	20	3	23	守る会、NICE
2018	12	16	日	里山作業と交流会	シイタケ構木用コナラの伐採、観察路の風倒木処理、交流会	17	0	17	守る会、NICE
2019	1	27	日	観察路整備	観察路清掃(内田林)、観察路の風倒木	6	0	6	嶽の会が中心
2019	2	10	日	里山ホリデー	風倒木処理	5	0	5	守る会、NICE
2019	3	10	日	里山ホリデー	雨天中止 (自主活動に変更)	(4)	0	(4)	守る会、NICE
参加者数合計(延べ)						65	3	68	



観察路の倒木処理

里山保全活動は、このほか「守る会」の主催で取り組まれた「里山保全作業」(毎月第一金曜日、「大阪シニア自然カレッジ里山部会」の人たちが多数参加)、「守る会」と「NPO 法人日本国際ワークセンター(以後、NICE と略す)」との共催事業(国際ワークキャンプ、週末ワークキャンプ、国際週末ワークキャンプ)、「守る会」が外部団体を受け入れて実施した事業[「公益社団法人大阪自然環境保全協会(以後、保全協会と略す)」主催の自然環境市民大学(以後、市民大学と略す)、その他受け入れた講座など]などでも実施された。これらの活動はすべて奥の谷の里山で実施された。

(2) 石川河岸段丘(中野町)の竹林整備(表2)

竹の伐採、チップパーによる竹のチップ化、東側法面および西側平坦地の草刈り、2017 年度に伐採したクヌギなどの大径木の処理などを行なった。表2に示したように作業は18回実施し、延べ97人が参加した。また、守る会有志による自主的作業が10数回行われ、西側の裏面のスロープ、北東側入り口の竹柵、北側入り口の門などが作られた。2018年12月6日には新堂小学校6年生のボランティア授業を受け入れ、竹の伐採、ワークショップ、竹工作が行われた。

表2 中野町竹林整備

No.	開催日時				参加人数			作業内容
	年	月	日	曜	大人	子ども	計	
1	2018	4	1	日	5	0	5	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
2	2018	4	21	土	7	0	7	タケノコ堀、東側法面の竹の伐採
3	2018	5	13	日	3	0	3	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
4	2018	6	24	日	7	0	7	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
5	2018	7	7	土	—	—	—	雨天中止
6	2018	8	5	日	5	0	5	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
7	2018	9	24	月	6	0	6	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
8	2018	10	28	日	3	0	3	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
9	2018	11	11	日	5	0	5	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
10	2018	11	24	土	8	0	8	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
11	2018	12	2	日	5	0	5	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
12	2018	12	9	日	3	0	3	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
13	2019	1	6	日	7	0	7	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
14	2019	1	19	土	5	0	5	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
15	2019	2	2	土	6	0	6	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
16	2019	2	24	日	7	0	7	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
17	2019	3	9	土	10	0	10	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
18	2019	3	24	日	5	0	5	竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理・運搬、など
参加者数合計(延べ)					97	0	97	

中野町の竹林の
チップパー収納小屋

2. 文化的活動(自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動)

(1) 米作り体験(表3)

奥の谷の水田(約300m²)を借地し、米作りを実施。協議会の行事としては①田植え、②稲刈り、③稲こ

ぎ（脱穀）を行った。三行事を通じ延べ109人が参加した。水田の耕耘等田植えの準備、水の管理、田の草取りなどは守る会が行った。

表3 米作り体験										
回	行事名	開催日時					参加人数			内容
		年	月	日	曜	時	大人	子ども	計	
1	田植え	2018	6	9	土	10:00～16:00	31	19	50	手植え
2	稲刈り	2018	10	13	土	10:00～16:00	29	5	34	ノコギリ鎌、はぜかけ
3	稲こぎ	2018	11	3	土	10:00～16:00	22	3	25	足踏み脱穀機、篩、唐箕
参加者数合計							82	27	109	



田植え

(2) その他の文化的行事（表4）

その他の文化的行事を表4に示す。春の野草を食べる会、里山クラフト、どんと餅つきを実施した。三つの行事を合わせて179人が参加した。

①野草を食べる会

みんなで摘んできた野草をについて解説し、調理した。メニューはヨモギ団、ヨメナ・タケノコご飯、野草のおひたし（セリなど）、ノビルのぬた、タケノコの木の芽和え、各種野草の天ぷらなどであった。この行事は毎年大変好評で、老若男女61人が参加。にぎやかで楽しい催しであった。

②里山クラフト（蔓細工を中心に）

11月23日（祝）に佐々木氏を講師に実施した。午前中は山に入りフジ、アケビ、アオツヅラフジなどの蔓を採取し、午後はそれを用いて籠やリース作りを行った。

③どんともちつき

1月13日（日）に実施した。最初に書初めを行い、続いてどんと焼きを行った。そのあともちつきを行った。きな粉もち、あんこ餅、雑煮などを作り、みんなで楽しく食べた。どんどの準備は前日に守る会とNICEで行った。

表4 その他の文化的行事											
回	行事名	開催日時					参加人数			内容	備考
		年	月	日	曜	時	大人	子ども	計		
1	春の野草を食べる会	2018	4	29	日	10:00～16:00	40	21	61	野草の採取、食べられる植物の説明、調理(ヨモギ団子、タケノコご飯、セリのおひたし、各種てんぷらなど)	
2	里山クラフト	2018	11	23	金	10:00～16:00	14	5	19		
3	どんともちつき	2019	1	13	日	10:00～16:00	82	17	99		
参加者数合計							136	43	179		



里山クラフト（作品と一緒に）

3. 自然観察・調査研究・政策提言活動など

(1) 自然観察（表5）

自然観察会は表5に示すように、これまでの植物観察会、水の生き物観察会、昆虫観察会、野鳥観察会に加え3月に春を見つける観察会と称してアカガエルやフキノトウなど春先に出現する生き物を観察する会を実施した。これらの観察会を通じての延べ参加者数は123人であった。

①植物観察会

奥の谷の農道や観察路を歩いて、開花または結実している草本類、木本類を中心に観察した。

②水の生き物観察会

6月17日（日）に実施した。水の生き物池で子どもたちが中心で水生生物を捕獲し種類を調べた。

③昆虫ウオッチング

7月2日（土）に実施した。午後3時に集合し、昼間はトンボやチョウを捕りながら山野を歩き、バイトトラップ（バナナ）を樹木などに仕掛けた。その後嶽山の昆虫標本（守る会所蔵）を観察した。夕食後山裾に設置したライトトラップを点灯した。日没後、樹液にきている昆虫やバナナトラップにきている昆虫を観察しながら真っ暗な山中を懐中電灯を頼りに歩いた。

④野鳥観察会

2月17日（日）、上村賢氏（日本野鳥の会）に講師を依頼して実施した。これまで錦織公園で実施してきたが、2018年度は石川～春日神社～奥の谷のコースに変更して実施した。

⑤春を見つける観察会

早春の3月2日に実施した。水の生き物池には1月末から2月にかけてアカガエルが産卵しており、数十個の卵塊を見ることができた。

表5 自然観察会

回	行事名	開催日時				参加人数			観察した生き物	備考
		年	月	日	曜	大人	子ども	計		
1	植物観察会	2018	4	8	日	7	0	7	ウワミズザクラ、オオイヌフグリなど	奥の谷(ルーベで観察)
2	植物観察会	2018	6	16	土	5	0	5	ノアザミ、キツネノボタ、オニタビラコなど25種	奥の谷
3	水の生き物観察会	2018	6	17	日	24	24	48	メダカ、アメンボ、オタマジャクシ、マツモムシなど11種	奥の谷
4	昆虫観察会	2018	7	21	土	16	8	24	モンシロチョウ、タマムシ、カナブン、キマワリ、クロコガネ、ヒグラシなど31種	奥の谷(ネットティング・ライトトラップ・バナナトラップ)
5	植物観察会	2018	9	22	土	5	0	5	センニンソウ、ワレモコウ、ツリガネニンジン、ゲンノショウコなど69種	奥の谷
6	植物観察会	2018	10	7	日	5	1	6	シリブカガシ、ツブラジイ、アラカシ、コナラ	奥の谷(どんぐりを探そう)
7	野鳥観察会	2019	2	17	日	10	0	10	カルガモ、カイツブリ、トビ、シメなど29種	瀬谷不動駅～春日神社～奥の谷
8	春を見つける観察会	2019	3	2	土	7	11	18	アカガエルの卵、ツクシ、フキ、ハコベ、タネツケバナなど	奥の谷
参加人数合計(延べ)						72	44	123		



野鳥観察会



アカガエルの卵塊

(2) 自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加した。主として文献調査による富田林の野鳥リストの作成であった。活用調査その17として次のような内容の報告書が作成された。

1. 生物多様性保全のための基礎調査

(1) 富田林の野鳥についての文献調査(富田林市の鳥類目録)

(2) 生物多様性保全の取組みについて〔①調査結果のまとめ、②富田林の野鳥について生物多様性保全の視点からの提案〕

2. 補足現地調査(奥の谷地区 台風21号及びクビアカツヤカミキリ被害調査)

(3) 富田林緑の基本計画策定への協力

富田林市は2007年に策定した緑の基本計画を2019年3月に改訂した。協議会はこの改定にあたって議論に参加し、それらの意見が一定程度反映された。また、これらの議論の中で、生物多様性地域戦略の策定の必要性が強調された。

(4) 冊子「富田林の自然」No.17の発行

また、守る会は以下の調査を大阪自然環境保全協会の自然環境市民大学OBの方々の協力を得て実施した。

①モニ1000里地調査

モニ1000里地調査は環境省が日本自然保護協会(以後NACS-Jと略す)に委託して実施している調査で、守る会は2009年から植物およびチョウの調査を奥の谷で行なっている。2018年は10年目となる。

②南原(みなんばら)の植生調査

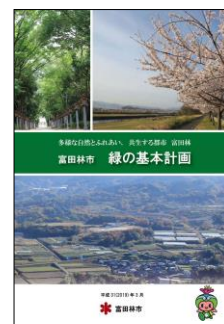
守る会は南原でルートセンサスおよび畦に設置したコドラートについての植生調査を実施している。

③錦織公園の植生調査への協力

守る会は保全協会の都市公園自然調査研究会が行なう錦織公園での調査に協力した。ここでの調査はルートセンサスにより植生調査を中心に昆虫、野鳥についても調査した。

④その他 調査への協力

このほか、守る会は大阪府立大学学院生のフクロウ調査に協力した。



4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ (表6)

「国際ワークキャンプ大阪富田林 2018」がNICE と守る会の共催で8月30日(木)～9月13日(木)の間、奥の谷で実施された。奥の谷での国際ワークキャンプは1999年に1回目が開催され、2018年は第20回の記念の開催であった。①人工林の間伐、②竹林の整備(中野町)、③竹林整備(奥の谷)、④観察路整備(階段づくり)を実施した。9月2日(土)に歓迎会が行われ、富田林市から産業環境部長、みどり環境課長、みどり公園係長および担当職員が来賓として参加、市長からのメッセージが紹介された。キャンパーは外国人4人(ロシア2人、ポルトガル、アメリカ)、日本人1人が参加、奥の谷のミカン小屋に宿泊した。ワーク以外にはスライドショー(里山保全と生物多様性、奥の谷の四季)、ディスカッション(各国の環境問題)、クラフトづくり(竹細工など)、着付け、じないまち見学、お花、習字、ホームステイを行った。スタッフを含め地元などから延べ142人が参加した。国際ワークキャンプには協議会から89,382円の財政支援を行った。

表6 国際ワークキャンプ大阪富田林2018

月日	曜日	午前	午後	夜	参加者数			
					キャンパー	地元	子供	計
8月30日	木		13:00滝谷不動駅集合 小屋生活に関するオリエンテーションなど		5	3	0	8
8月31日	金	プレゼン「生物多様性と里山保全」	ワークのオリエンテーション		5	4	0	9
9月1日	土	ワーク①(9:00～12:30)		歓迎会(17:00～19:00)	5	45	7	57
2	日	ワーク①(9:00～12:30)	習字・お茶		5	14	0	19
3	月	ワーク①(9:00～12:30)	日本の遊びを楽しもう	ホームステイ(16時～)	5	8	0	13
4	火	フリーデー		21時に滝谷不動駅に集合	5	2	0	7
5	水	ワーク②(9:00～12:30)	(流しそうめん昼食)		5	7	0	12
6	木	ワーク②(9:00～12:30)	寺内町見学		5	8	0	13
7	金	フリーデー		21時に滝谷不動駅に集合	5	2	0	7
8	土	クラフト			5	5	0	10
9	日	ワーク③(9:00～12:30)	お花	ホームステイ(16時～)	5	18	0	23
10	月	フリーデー		21時に滝谷不動駅に集合	5	2	0	7
11	火	ワーク③(9:00～12:30)	ディスカッション(14:00～16:00)		5	6	0	11
12	水	ワーク④(9:00～12:30)	さようなら会準備	さようなら会(18:00～20:00:キャンパー主)	5	5	0	10
13	木	片付け、総括	昼食後解散		5	6	0	11
参加者数合計					75	135	7	217

ワーク①:人工林の間伐、 ワーク②:竹林整備(中野町)
ワーク③:竹林整備(奥の谷)、 ワーク④:観察路整備(階段づくり)

キャンプの開催中に台風21号が襲来し、みかん小屋の前の杉の大径木が倒れるなど大きな被害が出た。今後の開催における宿泊施設の検討が必要と思われた。



じないまち見学



観察路づくり

5. 2018年度の活動などで特徴的だったこと

- 奥の谷の設備が充実した(ヘルメット置き場、足洗い場の踏み台、男子トイレの手水鉢、薪小屋、工作用の机など)。
- 発電機及び水揚げポンプを更新した。
- 太陽光発電システムのバッテリーを更新した。
- 20周年記念となる国際ワークキャンプを実施した。
- 内田林の中央付近から北西に尾根に上る観察路が完成した(市民大学16期実習)。
- 中野町竹林の整備が進んだ(東側モウソウ竹林とマダケ林の境界の橋、西法面のスロープ、北及び南入り口の門、北東入り口の竹柵)。
- 台風21号による倒木被害が多数発生した。
- 米づくり体験の稲作にイノシシによる大きな被害が出た。
- 稲の馬鹿苗病が発生した。
- コナラの古木にナラ枯れが多発した。

<協議会参加団体の活動報告>

金剛の自然環境を守り育てる会

2007 年近隣の住宅開発によって失われる自然環境に危機感を持ち、寺池台 3 丁目自治会の住民有志が中心になって立ち上げた会である。約 10 年間寺池台小学校 5 年生と米作りをしてきた。会員の減少と高齢化で、現在は錦織公園につながる遊歩道の整備と環境保全の啓蒙活動をささやかにしている。

連絡先 喜田光子

584-0073 富田林市寺池台 3-15-10 TEL/FAX 0721-28-4737



竜泉里山クラブ

・定例活動

- ①ミカン園手伝い（採果、剪定枝の処理、販売）
- ②クリ、椎茸栽培（剪定、クヌギ伐採、菌打ち）
- ③サツマイモ、里芋、ネギ栽培（耕作、販売）
- ④竹林整備（間伐、タケノコ掘り）
- ⑤出前講座（竹細工の指導）
- ⑥炭焼き、竹酢液蒸留
（竹炭、もみ殻燐炭、竹酢液蒸留）

・新しい取り組み

日本ミツバチの飼育



定例活動は循環型環境保全、当クラブ支援農家への作業協力、地域の児童と交流などをベースに活動をしています。また活動費の捻出のための農作物栽培も重要な取り組みになっています。

現在地で 20 年間にわたり活動を続けていますが、高齢化した会員や新しい会員でも体に負担が少なく楽しい里山活動を検討してきました。日本ミツバチの飼育が適さないか、この 1 年間養蜂実習を行ってきました。いくつかの問題、課題が見つかりましたが次年度から本腰を入れて取り組む予定です。

活動状況はホームページにも記載しています。

竜泉里山クラブ/検索 INDEX (V8) <http://www.eonet.ne.jp/~ryusen>

連絡先：吉田憲司（事務局）

584-0055 富田林市伏見堂 867-42 080-6141-5331

特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「新しい“里山的” 生き方・暮らし方 の提案」をコンセプトとして、里山の保全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約 120 名。活動グループのひとつ「とんびくらぶ」では、龍泉寺近くの果樹園で里山初心者が楽しみながら草刈りなどの手入れや果物の収穫などを行なっています。

<講座および自由参加活動>

- 里山ボランティアの日（里山体験） ●里山日和（里山体験）
- キッズクラブ事業部（子供対象） ●もりあん（技術講習）
- 弘川千年の森（協働事業） ●とんびくらぶ（山仕事体験）
- 里山と暮らす応援講座（里山実習）
- 源流米パラダイス（棚田の保全活動）
- スモールファーム自給塾（農業研修）

<生産販売事業>

- 里山事業部（森林作業請負、炭・薪等の生産販売）
- 里山倶楽部自然農場（無農薬米、野菜等の生産販売）

<まちづくり・調査研究活動>

- 里山バイオマスエネルギー事業部（薪炭林のエネルギー化研究）
- 里山環境教育オフィス（企業・行政との協働事業、ワークショップ等の受託事業）

連絡先：寺川裕子, 〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309



道普請の実習

石川自然クラブ

石川自然クラブは、石川の自然について学び、考え、調べ、遊び、行動することを通じて、石川本来の川の流れや河原の自然環境をとりもどし、地域の暮らしと共生する自然豊かな川づくりを行なうことをめざして、以下のような活動を行っています。

- ① 石川の自然や生きものについての学習・観察・調査
- ② 子どもたちが石川の自然を体験できる機会の提供
- ③ 石川の自然についてのPR活動
- ④ 石川の自然にふさわしい整備や管理についての共生型技術の検討・提案
- ⑤ 地域の人たちや市民団体、行政や専門家との協働の場づくり
- ⑥ 石川流域におけるネットワーク活動



希少種ミゾウジュの保全作業

毎月一回、第二木曜日に、石川に生息する希少な生きものを守る「自然ボランティア」活動、各季節に植物・魚・昆虫・動物・野鳥の自然観察会も実施しています。また、「石川自然公園自然ゾーン計画運営協議会」や「南河内ほわ〜っと流域ネットワーク」では、行政や地元町会と協働して石川の自然についての様々な取組みを行っています。

連絡先：寺川裕子, 〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309

嶽の会

2019 年 1 月 27 日（日）、観察路整備を 6 人の参加で行いました。今回は主に観察路にたまった落ち葉・枝等を取り除く作業です。落ち葉等をそのままにしておくと、木製の階段が早く朽ち長持ちしないからです。清掃と合わせて、昨年 9 月の台風で倒れ、通行の妨げとなっているスギ、コナラなどをチェーンソーを使って取り除きました（参加の皆さんお疲れさまでした）。

来年度から、登山・野外活動の経験を生かして里山生活入門（講座）として新たに活動をすすめます。多数ご参加ください



富田林の自然を守る会

協議会参加団体の内「守る会」の活動については協議会の活動と一体的な部分が多い。守る会として独自に取り組んだこと、あるいは他団体との共催事業や他団体の講座・行事などを受けいれて取り組んだ。2018 年度からは班活動を開始、以下に示す班を編成した。1. 炭焼隊、2. なんぼるがんばる（南原）、3. 米づくり班（自然農・畑）、4. 薪づくり班、5. 中野町竹林整備班、6. 果樹班、7. 施設整備班、8. 里山工作班、9. 観察会班（植物、昆虫、野鳥、水の生き物）、10. 昼食づくり班、11. ミツバチチーム、12. 草刈り班。

NICE 富田林チーム

2018 年 4 月より、5、6、7、10、11、12 月及び 2019 年 1、2 月と週末ワークキャンプを開催した。また、2019 年 3 月には香港との国際週末ワークキャンプを開催した。週末ワークキャンプへの参加は、9 回でのべ約 100 名であった。

活動としては、富田林の自然を守る会のご指導、ご協力のもと、間伐、草刈などを行った。また、里山ならではの四季折々の行事（蛍観賞、流しそうめん、昆虫観察会、猪解体等）も行い、いずれも参加者から好評であった。



昨年度は西日本豪雨や台風 21 号等、例年に増して災害の多い年であり、100 本以上の倒木や遊歩道の流れた箇所が多くあった。そのような状況の中で、週末ワークにおいても倒木の撤去、土積み、遊歩道の整備等、災害からの復旧作業を行うことができた。

また、講習受講済のリピーター参加者（守る会会員）が新たに草刈機、チェーンソーを扱えるようにしたことで、週末ワークキャンプ参加者の作業の幅も広がったように感じる。

未だマンパワーが必要な作業が多数存在するために、今年度以降も継続して参加者増の取り組みを続け、一人でも多くの方に里山に関心を持ってもらうための活動を続けていく予定である。

富田林の自然を守る市民運動協議会

富田林の自然を守る会

特定非営利活動法人 里山倶楽部

石川自然クラブ

嶽の会

金剛の自然環境を守り育てる会

竜泉里山クラブ

オブザーバー

日本国際ワークキャンプセンター関西事務局（関西NICE）

事務局

産業環境部みどり環境課

〒584-8511 富田林市常盤町1 番1 号

TEL 0721-25-1000（内 431）

富田林の自然

2019 年3 月 発行

発行 富田林の自然を守る市民運動協議会